

はなるまい。従つて現時に於て、印度ギリシア風 *Indo-gréc* 美術とは云はずに、ギリシア風バクトリア *Gréco-bactrien* 美術と稱するものが猶ほ多い所以である。固より長い間、アフガニスタン *Afghanistan* 全土の如く、其のトルキスタン *Turkestan* は、考古學的研究が行はれず、バクトリアは、共に探檢された印度とセランド *Sérinde* との間に、残つてゐる鎖になつてゐるただけに、此の問題は大體未解決であつたが、終に、幸運は現都督の自由精神と相俟つて、フランスの除險隊が、ヒンヅクーシユの兩山側に考古學的踏査を試み得たのである。長く期待せられて居た所では、バクトリアの舊都バクトル *Bactres* で得られるものとし、學界の祕密を開くこの最初の研究の結果は、實に驚くべきものであらうと、人々は熱心に待ち設けたのであつた。

腹藏なくいはゞ、余はバルク *Balkh* (バクトルの現名とせらるゝ地) 滞在十八箇月の後に於て、バーンズ *Al. Burnes* が、百年前、その旅行記中で、バルクは嘗て眞の都市でなかつたと云つた序言を肯定するの他ないのである。其處には、近代の煉瓦で覆はれた土壤の丘陵が打續いて居て、アケメニド *Achéménide*